

筑波大学学生表彰者と入試

白川友紀，島田康行，大谷 奨，本多正尚，関 三男（筑波大学）

筑波大学で 2005～2010 年度に学生表彰を受けた学生と 2008～2010 年度に学生表彰を受けた大学院生の学士課程への入学経路について調査した。スポーツの分野では推薦入試とアドミッションセンター入試（AC 入試）で入学した学生の表彰される割合が高く，スポーツ以外の分野で表彰される割合は AC 入試で入学した学生が高かった。入学者千人当たりの表彰件数では，AC 入試で入学した学生の表彰件数は 28.2 件で，全体平均の 2.8 件の 10 倍であった。

1 はじめに

入試の評価としては入学後の学業成績が用いられることが多いが，学生の資質をより多面的に評価するには他の評価方法も用いる方が良いといわれている（福島，2007；福島・清水，2009）。実際，学業成績以外の評価の例としては，卒業研究指導教員による評価（渡辺・武谷，2005）などがあげられる。しかし，卒業研究指導教員による評価も大学内部での評価という点では学業成績による評価と似た指標であると言える。西郡は，大学入試研究ジャーナルに掲載された論文を分析し，追跡調査に使用された大学以外での評価指標に，医師国家試験の合否，卒業後進路，卒業後活動状況が使われていることを示した（西郡，2011）。

本稿では，大学外での評価を取り入れた評価を指標として入試の評価を試みるため，筑波大学において学生表彰を受けた学生の入学経路を調べた。学生表彰は，ごく一部の特に優れた学生のみを対象とするため，一般的な入試の評価には向かないという面がある。しかし，筑波大学において学生表彰の基準をみたすためには大学内の評価だけでなく，全国的に，あるいは世界的に評価されなければならないため，大学の外における客観的な評価が入っているというところに特徴がある。こ

の点から，学生表彰に選ばれたことをもって入試の評価のひとつとすることには意味があると考えられる。

2 学生表彰制度

2.1 学生表彰の制度

2.1.1 2004 年度～ 2005 年度

筑波大学では学生の表彰は学則によって行われていたが，法人化後は，2004 年 11 月 25 日に国立大学法人筑波大学学生表彰に関する法人細則によって学生表彰に関し必要な事項が定められた。それにより，次のいずれかに該当する者を表彰することができることになった。

- (1) 筑波大学における卒業論文，修士論文又は博士論文，卒業制作又は修了制作，研究その他の学修の成果が優れていると認められる者
- (2) 筑波大学における課外活動の成果が特に顕著であり，かつ，筑波大学の課外活動の振興に功績があったと認められる者
- (3) 社会活動において顕著な功績があったと認められる者
- (4) その他前 3 項と同等の学生表彰に値する功績があったと認められる者

表彰に至る手続は，

- (1) まず教育組織の長（学群長，研究科長等）が，学生表彰の候補者を学生生活担当副学長に推薦する
- (2) 推薦を受けた学生生活担当副学長は学生生活支援室の意見を聴いて学生表彰の候補者を決定し，学長に報告する
- (3) この報告に基づき，学長は被表彰者を決定し，表彰状の授与，記念品の贈呈を行うとされていた。

2.1.2 2006年度～2007年度

2006年度からは学生表彰を卒業式の際に行うことになり，表彰に至る手続きが次のように変更された。

- (1) まず学生生活担当副学長が教育組織の長に学生表彰候補者の推薦依頼を行う
- (2) 教育組織では候補者の選考を行い，各教育組織から1名のみを担当副学長に推薦する
- (3) 担当副学長は学生生活支援室と審査・協議して学生表彰の候補者を決定し学長と各教育組織に報告する
- (4) 学長は被表彰者を決定し卒業式において表彰する（在学中の学生については，同日に学長室で表彰する）

ただし2007年度末には各教育組織（学群）から1名の制限が緩和された。

2.1.3 2008年度以降

2008年度からは学生表彰に関する法人規程が改定され，学生表彰委員会が設けられた。

（学生表彰委員会）

第2条学群学則第59条第2項及び大学院学則第65条第2項に規定する「学生生活を担当する副学長の下に置かれる委員会」は，学生表彰委員会（以下「委員会」という。）とする。

2 委員会は，次に掲げる委員で構成する。

(1) 学生生活を担当する副学長（以下「担当副学長」という。）

(2) 学長が教育研究評議会の意見を聴いて指名する大学教員若干人

(3) 学長が担当副学長の推薦に基づき指名する大学教員若干人

3 前項第2号及び第3号の委員の任期は，2年とする。ただし，任期の終期は，委員となる日の属する年度の翌年度の末日とする。

4 補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

5 前2項の委員は，再任されることができない。

この規定により次のように学生表彰が決定される。

まず教育組織の長が学生表彰の候補者を学生生活担当副学長に推薦する。担当副学長は学生表彰委員会の議を経て学生表彰の候補者を決定し学長に報告する。学長はこの報告に基づき被表彰者を決定し，表彰状の授与，記念品の贈呈を行う。

この規定により，学生表彰の候補者は随時推薦，決定することができるようになった。また，表彰は卒業式の日に限らず随時行われることになり，世界大会等で優勝するたびに同じ学生を何度も表彰することもできるようになった。2010年度には学園祭においても表彰式が行われた。

2.2 学生表彰の基準

学生表彰の具体的な基準は次のように定められている。

(1) 体育系の分野

① オリンピック，世界選手権その他のスポーツの最高権威の大会に日本を代表して出場した者

② アジア大会，ユニバーシアード大会その他の国際スポーツ大会に日本を代表して出場し，優れた成績をおさめた者

(2) 芸術系の分野

絵画，彫刻，デザインその他の造形芸術分野又は音楽，演劇その他の芸術分野に関する創作活動又は研究活動で，作品，公演，論文等が，国際レベル又は国内レベルの審査，学会等で高い評価を得た者

(3) 文科系の分野

文科系又は社会科学系の分野における創作活動，研究活動等で，小説，詩等の作品，評論，論文等が，国際レベル又は国内レベルの審査，学会等で高い評価を得た者

(4) 理科系の分野

理学，工学，農学，医学その他の理科系の分野における研究活動又は発明，発見等が，国際レベル又は国内レベルの審査，学会等で高い評価を得た者

(5) その他

前の4項と同等の功績があったと筑波大学が判断した者

(6) 社会活動

ボランティア活動，人命救助活動，犯罪防止活動，火災防止活動その他の社会活動で顕著な功績があったと筑波大学が判断した者

3 学生表彰

3.1 学生表彰実施結果

表1に学生表彰の件数を年度別に示す。

2004年度以前は学部^リ学生と大学院生を区別したデータができていないため合計数を示しているが，2005年度以降は学部学生と大学院生を分けて示した。ただし，医学は6年制で，被表彰者が6年生であることから，便宜上大学院生として計上した。

1993～1997年度と2000～2001年度は学生表彰該当者がいなかった。

2003～2005年度には毎年20名を超える学生が表彰された。2006年度は，学士課程では各学群につき1名しか推薦できなかったため，学生表彰は5名となった（芸術専門

学群，図書館情報専門学群は該当者なしであった）。2007年度からは1学群から複数の候補者を推薦することができるようになった。

表1 学生表彰件数

年度	学生表彰件数		
	学士課程	大学院	小計
1993 ～ 1997	0		0
1998	2		2
1999	2		2
2000 ～ 2001	0		0
2002	11		11
2003	23		23
2004	31		31
2005	8	20	28
2006	5	12	17
2007	8	8	16
2008	9	8	17
2009	3	8	11
2010	17	8	25
1993 ～ 2004	69		183
2005 ～ 2010	51	63	

「医学6年」は便宜上「大学院」に計上

さらに2008年度からは同じ学生を何度も表彰できるようになった事もあって，全国レベル，世界レベルという基準は緩めていないが，2010年度には同じ学生が通算して3回目の学生表彰を受けた例ができた。このことから，今後，学生表彰の件数は増えると考えている。そのため，表1では，人数ではなく件数で表示した。

1993年度から2010年度までの間の学生表彰は183件で，その内2005～2010年度の間は，学士課程で51件，大学院（医学6年を含む）で63件の114件であった。

3.2 入試別入学者数

被表彰者の母集団として、アドミッションセンター入試（AC入試）が始まった2000

年度から2010年度までの入試別の入学者数を表2に示す。

表2 入試別入学者数

年度	AC*	推薦	個別		その他	
			前期	後期	編入学	その他**
2000	53	449	1,101	377	48	46
2001	97	446	1,093	350	54	66
2002	92	449	1,091	329	45	43
2003	80	519	1,270	380	54	59
2004	76	511	1,295	375	108	53
2005	77	532	1,294	382	142	57
2006	72	558	1,401	259	141	56
2007	79	568	1,365	210	161	71
2008	65	540	1,392	233	156	55
2009	61	547	1,388	243	155	64
2010	63	549	1,349	228	135	46
合計	815 3.2%	5,668 22.1%	14,039 54.6%	3,366 13.1%	1,199 4.7%	616 2.4%

AC* は、AC入試第I期と第II期、国際科学オリンピック特別入試

その他** は、留学生、2学期推薦入試、帰国生徒特別入試、学士再入学

全体の入学者数は、2003年度から図書館情報専門学群と看護・医療科学類が増えたことにより、増えている。

AC入試は、開始された2000年度当初には一部の学群、学類だけが実施していたが、2001年度に社会学類と医学専門学群を除く全学で実施するようになった。2006年度の学群改組の際などには、後期入試とAC入試をやめる組織や、AC入試の募集人数を増やす組織があり、また医学の地域枠や2009年度から国際科学オリンピック特別入試を開始するなど、年度によって入試毎の募集人数は多少増減している。

生の入試別の表彰件数を示す。2005年度からとした理由は2004年度以前の学生の入学経路をすべては把握していないからである。

表3 入試別学生表彰件数（学士課程）

年度	AC	推薦	個別	その他
2005	0	4	3	1
2006	1	3	0	1
2007	5	3	0	0
2008	1	3	4	1
2009	2	1	0	0
2010	6	9	2	0
合計	15	23	9	3

3.3 入試別学生表彰件数

表3に2005～2010年度の学士課程の学

表3において、「AC」はアドミッションセンター入試（AC入試）、「推薦」は推薦

入試、「個別」は個別学力検査（前期と後期の合計）で入学した学生の表彰件数を示す。

「その他」は、編入学，2学期推薦入学（帰国生徒特別選抜8月入学），外国人留学生，帰国生徒特別選抜（4月入学），学士再入学，転籍の合計である。

2005年度から2010年度までの6年間でAC入試による入学者が15件，推薦入試による入学者が22件，個別学力検査による入学者が9件，その他の入試による入学者が3件の表彰を受けている。

表4に2008～2010年度に表彰された大学院生と医学6年生の，学士課程における入学経路別の学生表彰件数を示す。

表4 入試別学生表彰件数
(大学院・医学6年)

年度	AC	推薦	個別	その他
2008	3	3	1	1
2009	3	1	3	1
2010	2	4	0	2
合計	8	8	4	4

表4において、「AC」とは、AC入試で学士課程に入学し、卒業後に筑波大学の大学院に進学して、大学院において学生表彰を受けた件数である。「推薦」，「個別」も同様に学士課程への入学経路を示す。「その他」には、その他の入試により筑波大学学士課程に入学した学生だけでなく、他大学から大学院に入学した大学院生1名が含まれている。

2008～2010年度の3年間で、AC入試による入学者が8件，推薦入試による入学者が8件，個別学力検査による入学者が3件，その他の入学経路による入学者が4件，大学院において表彰を受けている。

件数は少ないが，母集団に占める割合と比較すると，AC入試，推薦入学の被表彰者の割合が高い。

3.4 体育分野での表彰件数

学生表彰の具体的な基準の最初に「体育系の分野」として、「オリンピック，世界選手権その他のスポーツの最高権威の大会に日本を代表して出場した者，アジア大会，ユニバーシアード大会その他の国際スポーツ大会に日本を代表して出場し，優れた成績をおさめた者」があげられているが，実際に体育の分野で活躍する学生が多く学生表彰を受けている。

表5に学生表彰の件数を，表彰にかかわる内容がスポーツでの活躍によるものか，そうでないかによって分けて示す。

表5 学生表彰件数（体育分野とその他）

年度	学生表彰件数		
	体育	体育以外	小計
1993 ～1997	0	0	0
1998	0	2	2
1999	2	0	2
2000 ～2001	0	0	0
2002	2	9	11
2003	7	16	23
2004	5	26	31
2005	5	23	28
2006	2	15	17
2007	7	9	16
2008	5	12	17
2009	4	7	11
2010	14	11	25
合計	53	130	183

この分類は，表彰内容による分類であるので「体育」に分類されている件であっても，被表彰者は体育を専門とする学生，大学院生ばかりではない。また，表彰件数全体の30%弱が体育の分野での活躍による表彰である。

表彰事由と入試との関連を見るため，体育

競技、文科・理科の優秀論文等とそれ以外の分野（芸術系コンテスト、ボランティア活動などの社会活動、人命救助など）での表彰について入試別の件数を調べた。

表6は、2005～2010年度の学士課程の表彰と、2008～2010年度の大学院生の表彰を合計して、他大学から筑波大学大学院に入学した1名を除いたデータを示す。体育分野であっても優秀論文による表彰は「文科・理科」に含めた。

表6 表彰分野・入試別学生表彰件数

分野	AC	推薦	個別他*
体育競技	10	22	1
文科・理科	13	7	14
芸術他	0	2	4
合計	23	31	19

個別他* は、個別学力検査、編入学その他

表6から推薦入試では体育競技による表彰件数が多いことが分かる。体育競技での学生表彰は「課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、筑波大学の課外活動の振興に功績があったと認められる者」に該当する。

「文科・理科」には「卒業論文、修士論文又は博士論文」と「研究その他の学修の成果が優れていると認められる者」が多いが、基準により、単に大学内で優秀な論文と認められるだけではなく、採択率の低い論文誌への採択や、学会賞などの取得がなければ学生表彰の対象とはなっていない。

「芸術他」はボランティア活動や人命救助を含む社会活動による表彰が多い。表彰事由として優秀論文と社会活動の両方があげられている場合は主となる事由（優秀論文）から「文科・理科」に分類した。

表2のデータから他大学から筑波大学大学院に入学した1名を除いたデータと表6の入学経路ごとのデータについて、AC入試、推

薦入試による入学者とそれ以外の学生との表彰件数と、母集団としての表2の入学者数、ならびに千人当たりの表彰件数をまとめて表7に示す。

AC入学者は入学者数では3.2%程度であるが、表彰件数の31.5%程をAC入学者が占めており、千人当たり表彰件数もAC入学者が28.2件と平均（2.8件）の10倍の件数を受けていたことが分かった。

表7 入学経路別学生表彰数と入学者数

入試	表彰件数	入学者数	千人当表彰件数
AC	23		28.2
体育実技	10	815	12.3
文科・理科	13		16.0
推薦	31		5.5
体育実技	22	5,668	3.9
文科・理科	7		1.2
芸術他	2		0.4
個別・編入他	19		1.0
体育実技	1	19,220	0.1
文科・理科	14		0.7
芸術他	4		0.2
合計	73	25,703	2.8

4 おわりに

本稿では、学生表彰を評価に用いることを試みた。学業成績や卒業研究の成績が優秀な者を表彰するのであれば、学業成績や卒業研究の成績そのものを用いて評価をすれば良いと考えられるかもしれない。しかし、学生表彰には表彰基準に大学外部での評価が入っていることが大きな違いになっていると考える。そして、そのような評価においてはAC入試による入学者が健闘している。

参考文献

渡辺哲司・武谷俊一(2005).「指導教員による九州大学AO選抜『一期生』の評価」

『大学入試研究ジャーナル』, **15**, 7-12.

福島真司 (2007). 「AO 入学者の視点—入学
後 AO 入学者全員面接調査から—」『大
学入試研究ジャーナル』, **17**, 23-31.

福島真司・清水克哉 (2009). 「AO 入学者が
過ごした 4 年間—T 大学 AO 入学者全員
面接調査 (1 期生 4 年分) から—」『大
学入試研究ジャーナル』, **19**, 25-32.

西郡 大 (2011). 「個別大学の追跡調査に関
するレビュー研究」『大学入試研究ジャー
ナル』, **21**, 31-38.